

LOBO

業況DIは足踏み、先行き横ばい

日本商工会議所が発表した9月の全産業合計の業況DIは▼16・0と、前月から▼1.2ポイントの悪化。台風21号や北海道胆振東部地震、全国的な異常気象の影響が大きく、宿泊業や飲食業を中心とするサービス業や小売業、卸売業を中心に業況が悪化した。建設業や産業用機械、自動車、電子部品関連は堅調なもの、燃料費・原材料費の上昇や深刻な人手不足により、業況改善に向けた動きには足踏み状況がみられる。

業種別では、建設業は、都市部の再開発や設備投資、オリンピック関連を中心とする民間工事が堅調に推移したものの、深刻な人手不足や資材価格の高止まりの影響を指摘する声は多くほぼ横ばい。製造業は、産業用機械や自動車、電子部品関連の生産・輸出が全体を押し上げ改善。卸売業は、全国的な異常気象や北海道地震に伴い、農産物や飲食料品の仕入価格が上昇し、全体を押し下げたほか、個人消費の鈍さを指摘する声もあり悪化。小売業は、

台風などの天候不順による足元の客足減少に加え、食料品や日用品を中心に消費者の節約志向を指摘する声も根強く悪化。サービス業は悪化。台風21号により被災した関西国際空港や北海道地震の影響により、インバウンドを含め旅行客のキャンセルが相次ぎ、宿泊業や飲食業が全体を押し下げた。

先行きについては、先行き見通しDIが▼14.9(今月比+1.1ポイント)と改善を見込むものの、実体はほぼ横ばい。消費の持ち直しや、生産・設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、燃料費・原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、米国の保護主義的な関税措置に端を発する貿易摩擦の影響に加え、自然災害に伴うインバウンドを含む観光需要への影響の長期化を懸念する声が多く、中小企業の業況感ほぼ横ばいで推移する見通し。

(山形商工会議所など全国423商工会議所3,742企業にヒアリング)